



114
A 956



外國人ヲシテ高業ノ為ニ内地ヲ旅行セシムルハ其者行状ノ
 正シキ證及シ其事由アリテ往キテ欲スル地名其旅行中ノ時
 限等ヲ取極メタル其國コミニヨリノ書面ヲ差出シタル上ニテ地
 方官廳ヨリ旅行證書ヲ與ヘ其旅行ヲ許可スヘシ
 但外國人ニ内部旅行ヲ許スト雖モ日本政府ニ於テ之カ
 為別段ノ保證ヲ立テ外國人ヲ殊更ニ保護スルノ責
 ニ任スヘカラス雖然日本人ト一般ノ保護ヲ得セシムベシ
 假令ハ其者危險ニ遭ヒ或ハ損害ヲ受ケ或ハ生命ヲ失ヒ

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈



タル等ノ事情ニ際會シタルモ日本政府ハ其罪ヲ犯シ
タル日本人ヲ日本ノ法律ヲ以テ罰スル而已ニシテ決シテ
之カ為ニ損害ヲ償ヒ或ハ他國政府ニ罰金或ハ償金等
ヲ拂フ可ク承引スヘカラス又旅行ノ外国人他ノ外国
人ニ對シ又ハ日本人ニ對シ罪ヲ犯シ他ノ外国人又ハ日
本人ニ損害ヲ蒙ラシメ或ハ之ヲ企ル者アル時ハ其者ノ
旅行スル地方ニ於テ之ヲ捕縛シ之ヲ其者居住ノ地ニ送
達シ其國コシユルニ引渡スルコシユルハ之ヲ猶豫スルコ

ナク裁判スベシ

従前各國ト取結タル條約ハ一國ニ許可スルノ特典ハ必ス之ヲ他
國ニモ許可スベシトシテ凡レ條約ハ其一國ト我國トノニ關係スル
ヲ以テ一國ト取結フ條約ニ各國一般ノ條約ヲ取結フヘク或
ハ一國ニ許可スル特典ヲ各國ニ許可スヘシト約スヘカラス。

但高議協和セシテ局ヲ結フニ至ラサレハ従前ノ体ヲ
存スベシ尤此主旨ハ兩國ノ間ニ交渉スル條約ノ權義
ニ屬スル者ニシテ各外國人民ヲ國內ニ居住セシムルニ
付其國ノ異ナルヲ以テ其人民ノ權理ヲ區別スルノ

謂ニ非サルナリ

新港ヲ開クノ議ハ已ニ使節派出ノ恭摺書ニ掲ケタル通り其港
數港名及ヒ其ヨクヘキ年限等ハ華盛頓ニ於テ使節ノ
應接シタル書面ニ記シタル順序ヲ以テ之ヲ約スル丁妨ナシ

但新港數ヲ増加スルニ於テ我政府ノ費モ又隨テ増加
スルヲ以テ從前條約ニ掲ケタル稅則ニ依リ取立タル
稅額ヲ以テ其費用ヲ補フニ足ラス殊ニ我獨立國ノ
權理ヲ以テ自由ニ會計法ヲ創立シ自國ノ保護ヲ
堅固ナラシムルニ於テハ外國政府ノ管スル所ニ非ス

故ニ将来我政府ノ廟議ニ決スル所ヲ以テ海関税法
ヲ創立シ又ハ之ヲ變革シ之ヲ施設スル丁全ク我政
府ノ特權ニ歸スヘシ外國政府之ヲ承諾セハ新港ヲ
増加スルニ妨ナシ

現今已ニ開キタル諸港又ハ将来開クヘキ諸港ノ游歩規程
十里内ニ於テ
外人ノ居住スル事ヲ許可スルハ本約取換
セノ後二ヶ年ヲ經テ其五里内ニ居住スル丁ヲ許可シ又二
ヶ年ヲ經テ尚五里ヲ擴メ都合十里ノ地内ニ居住スル事ヲ
許可スヘシ

但此規程内ニ居住スル丁ヲ許可スルニ於テハ其地方
ニ關係スル法則ヲ遵奉シ其地方一般ノ日本入ヨリ
納ムル諸税ヲ納メ其地方諸入費ヲ日本人同様ニ拂ヒ

地方官廳ノ命令ヲ奉スルヲモ日本人ト均シク又是等
ノ法則收稅等ヨリ起リタル訴訟、裁判ハ日本政府
ニ於テ別段ニ創立スル裁判所ニ於テ是等ノ事ノミ
ヲ内外人民ノ區別ナク之ヲ裁判スベシ此裁判ノ權
理ヲ日本政府ニ歸スルニ於テハ本文ノ規程内ニ居
住セシムルヲ許可スヘシ

日本政府ニ於テ各般ノ法律ヲ創立シ各地方ニ裁判所
ヲ取建テ之ヲ實地我人民ニ施行スル時ニ至レハ直ニ之ヲ
日本ニ在住スル外国人ニモ同様ニ及ホスヘシ

但之ヲ施行スル為ノ用意整ヒタル時ハ日本政府
ヨリ之ヲ外國政府ニ報告スヘシ外國政府ニ於テ
之ヲ否ムヲナク直ニ承諾スルニ非スハ外國人内
部旅行ノ權義ヲ差留ムルハ外國政府ニ於テ異
議ヲ問セサル趣ヲ條約ニ記載スルニ至レハ尤良策ナリ

若し外國政府に於て旅行ヲ停ムルノ件ヲ承諾セス
シハ報告シタル時直ニ之ヲ否ムコトナク岡士裁判ノ權
理ヲ取除クハ確證ヲ得置クヘシ